

～ 結婚相談員紹介 ～

皆さんこんにちは。結婚相談員の佐藤です。

今年の春は新型コロナウイルス感染症に振り回され、自粛が余儀なくされました。そして、まだまだ終息しない中、梅雨の時期を迎えました。大変な時期ですが、こんな時だからこそ頑張りがいがある、！というものです。そして、夢と思いやりで人生の良きパートナーを見つけてください。山都魂で頑張りましょう！

～ 交際カップルの声 ～

① YOU & YOU に参加したきっかけは？

Wさん：知人に YOU&YOU が気になる・・・と伝えたら、気づいた時に申込書を持った吉田さんが居た（笑）

Xさん：インターネットで見つけたので参加しました。

② 初めて参加した時の心境は？

Wさん：ああ～緊張するなあ～。どうしよう・・・。

Xさん：初めての1泊旅行だったので緊張しました。

④ 現在の心境は？

Wさん：特に心境の変化はないです。ただ、大事な物が1つ増えました。

Xさん：しっかり向き合ってくれる大人の彼と、大切に付き合っていきたいです。

⑤ まだ参加していない独身者（男性・女性）へひと言

Wさん：吉田さんと会うと、きっと良いことあると思います。

Xさん：参加に躊躇している方も、YOU & YOU 楽しかったので行動することが大切だと思います。

問合せ先 YOU&YOU事務局（役場 山の都創造課）坂元・吉田
【電話番号】0967-72-1158【専用電話】090-9565-9589
【専用アドレス】marriage.support@town.kumamoto-yamato.lg.jp

佐藤 敬二 相談員
（小中竹）☎82-2519

交際期間：7ヶ月
男性：Wさん（32歳）
女性：Xさん（35歳）

③ お互いの印象は？

Wさん：目がきれいな人だなあ・・・。

Xさん：落ち着いていて、話すと楽しい人。



やまと文化の森だより

○ 自遊空間 18club 作品展

期間：7月1日～7月31日

地元作家 18club によるのびやかで清々しい作品が、心も体も晴れやかな空間へ皆様を誘います。

【期間中、水彩画体験を開催します！】

初めての方、大歓迎！画材の貸出も行いますので、お気軽にご参加ください。

参加費：無料

開催日：7/5、7/12、7/19、7/23

開始時間：13時30分～

定員：各回10名程度



くまモンが遊びに来てくれました！

やまと文化の森にくまモンが遊びに来てくれました。下田悌三郎作品展と棚田からの風パネル展を熱心に見て、くまモンも癒されているようでした。皆さんも気分転換にやまと文化の森を訪れませんか。©2010 熊本県くまモン



下田悌三郎さんの作品を探しています！

6月に開催しました下田悌三郎作品展には町内の方を中心に観覧にお越しいただき、誠にありがとうございました。やまと文化の森では、これを機に山都町が誇る下田悌三郎さんの作品展第二弾が開催できればと考えております。つきましては、下田悌三郎さんの作品を所有し、貸出が可能な方は、やまと文化の森までご連絡いただければ幸いです。ご協力をお願いいたします。

※企画展の最終日は15時30分までとなります。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、変更になる可能性があります。またご入館時には感染症対策にご協力をお願いしています。

問合せ先 山都町下市16番地 ☎72-9400
開館時間 9:00～17:00 入館無料
休館日 毎週月曜日、年末年始等
（月曜日が祝日又は振替休日の場合はその翌日）

わたしたちの人権

184

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

人権・「同和」教育町民意識調査結果の概要（抜粋）②

差別をしない意識から差別をなくす行動へ

今回は、意識調査結果の中から、住民の「同和」問題に対する解決意識の分析を紹介します。

○「同和」問題の解決と自分との関係

同和对策審議会答申から五十年が経過した中で、「同和」問題解決に対する意識の現状を把握するため、「同和」問題の解決と自分との関係について設問しました。

自分とは関係ない

「同和」問題について、自分とは「関係ない」と思っている人の合計が四十三・八％で、同様に「同和」問題解決のために「自分は差別しない」と答えた人の合計は六十三・一％です。

「自分とも関係あるので、なくす努力をしたい」と答えた人は十九・一％でした。

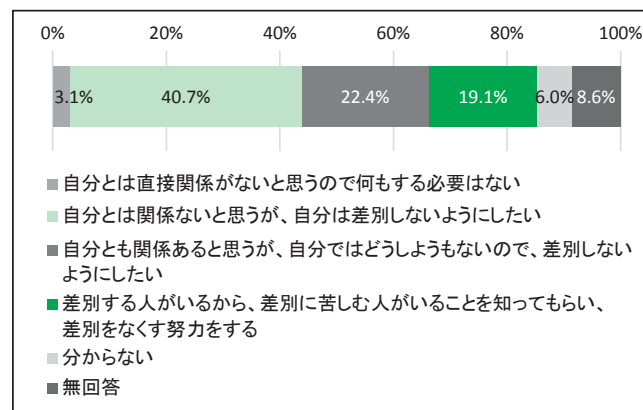
具体的な「同和」問題の解決意識については、まだ「自分には関係ない・差別しない」の意識にとどまっています。

差別しない・なくしたい

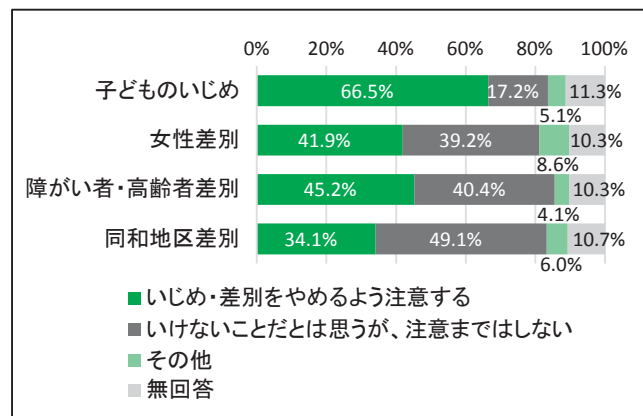
「同和」問題に対する解決意識で、「差別をしないようにしたい」・「差別しない」・「差別をなくす努力をしたい」と答えた人の合計は、八十二・二％でした。

過去に部落差別であることの認識もなく、悪いこととも思わず差別していた社会がありました。しかし、このように「差別しない・なくしたい」と意識する人が増えてきたことは、これまでの「同和」教育をはじめとした人権意識の高揚を図るさまざまな取り組みの成果だといえます。

「同和」問題の解決とあなたとの関係についてどう考えますか



身の回りで次のようなことがあった場合はどうしますか



○身の回りで差別があったときは？
部落差別をはじめ、あらゆる差別が存在する中、身のまわりにおける「子どものいじめ」・「女性差別」・「障がい者・高齢者差別」・「同和地区差別」があった場合、どうされているか設問しました。

結果、「子どものいじめ」に関しては、六十六・五％の人が「いじめ・差別をやめるよう注意する」と回答しています。

また、「女性差別」・「障がい者・高齢者差別」・「同和地区差別」においては、四割程度の人が「やめるよう注意する」と回答していますが、その反面、四割の人も「いけないこ

とだと思いが、注意まではしない」と回答していて、「見て見ぬ振りをする」場合も多い状況となっています。相手が子どもだと「注意」できますが、大人になりますと慎重な対応になる傾向といえます。

差別をなくす行動を
この分析からも、「同和」問題に限らず、身近で人権侵害が起こったときには「見て見ぬ振りをせず」に、やめさせる行動をとることが今後の課題といえます。
一人ひとりが「差別をなくす意識」を持って、町民の皆様と一緒に考え、行動していくことが求められています。